

令和5年度第2回岡崎市交通政策会議 会議録

1 開催及び閉会に関する事項

令和5年7月31日(月)14時00分～15時30分

2 開催場所

岡崎市福祉会館2階201号室

3 出席者及び欠席者の氏名

(1) 出席者(20名)

伊豆原 浩二 委員 (まちづくりの達人ネットワーク 理事長)
松本 幸正 委員 (名城大学 教授)
花村 元気 委員 (名古屋鉄道(株) 地域活性化推進本部 地域連携部 交通サービス担当 課長)
寺澤 秀樹 委員 (愛知環状鉄道(株) 運輸部 次長)
大野 淳 委員 (名鉄バス(株) 運輸本部 首席 交通企画官)
玉置 文博 委員 (名鉄東部交通(株) 取締役 路線バス事業部長)
浅岡 林平 委員 (愛知県タクシー協会岡崎支部 支部長)
小林 裕之 委員 ((公社)愛知県バス協会 専務理事)
※徳田 裕二 事務局長 代理出席
猿渡 博士 委員 (愛知県交通運輸産業労働組合協議会 幹事)
多々内 丈雄 委員 (岡崎商工会議所 交通部会 会長)
長坂 秀志 委員 (岡崎市総代会連絡協議会 会長)
加賀 時男 委員 (岡崎市障がい者福祉団体連合会 理事長)
萩原 幸二 委員 (岡崎市六ツ美商工会 会長)
鈴木 勝彦 委員 (額田地域生活交通協議会)
勝山 祐樹 委員 (国土交通省 中部運輸局 交通政策部 交通企画課長)
宮川 高彰 委員 (国土交通省 中部運輸局 愛知運輸支局首席運輸企画専門官)
※本田 慎一郎 首席運輸企画専門官 代理出席
石屋 義道 委員 (愛知県 都市・交通局交通対策課 担当課長)
※江崎 嘉彦 課長補佐 代理出席
久田 安信 委員 (愛知県 西三河建設事務所 維持管理課長)
山口 幸治 委員 (愛知県警察 岡崎警察署 交通課長)
※藤城 昌樹 係長 代理出席
山本 公德 委員 (岡崎市 副市長)

(2) 欠席者（1名）

鷺山 幸男 委員（岡崎市老人クラブ連合会 会長）

4 説明等のため出席した事務局職員の職氏名

岡田 晃典（総合政策部長） 木下 政樹（地域創生課長）

牧原 利雄（地域創生課副課長） 大森 裕美（主任主査） 川内 良祐（主査）

徳原 誉人（主事） 安藤 星哉（主事）

5 傍聴者、随行者等

8名

6 議題

- (1) 「チョイソコおかざき」実証実験第5期及び第6期運行計画(案)について
資料1に基づき事務局より説明

<以下、各委員の意見等>

委員： 状況が状況なため、半年間の延長というのはやむを得ないと思っている。そんな中、言葉だけの話ではあるが、経費削減を図るという表現について、それ自体が目的ではなく、事業の効率性を高めるといったことが趣旨だという理解で良いか。

委員： 良い。地域協議会等で説明する際には、表現を改める。

委員： 運行計画に記載の商工祭り等の日程は特別に運行するという事で良いか。

委員； 良い。

委員： 運行日数を減らすという案について、コロナウイルスが収束し、拡大が予想される移動需要を調べるということだが、従来と比較してどうかという検証方法になるかと思うので、日数を減らすのは納得いかないような内容だと思うが、どうか。

委員： コロナウイルスの第5類への移行により、移動需要の増大が予想されるが、事業を継続させるうえでは、より効率的な運行を行う必要があり、10月以降に検証が必要であると考えている。

委員： 補足だが、現在の運行状況としては、利用者の増加を想定しても、余裕のある状況である。週3日で運行したとしても問題ないのではないかと予測している。

この運行が最終的な決定ではなく、今回の運行で支障があれば、また改めるということになるかと考えている。

委員： データを踏まえた説明をすべきであったかと思う。医療施設の休診日が木曜日であり、木曜日の需要が少ない等の結果があり、そのあたりを考慮しつつ、実証運行

が概ね3年という縛りがあるため、半年間で決着させる必要があるというところで事業の効率性をあわせて確認する必要があるということであると思うが、どうか。

委員： そうである。

委員： 他に意見がなければ、今年度末まで検証を行うということでご了承いただきたい。

委員： 異議なし。

(2) 「矢作デマンド」実証実験第1期運行計画の延長について

資料2に基づき事務局より説明

<以下、各委員の意見等>

委員： この7月から運賃の改定等しているかと思うが、分かる範囲で実績の報告をお願いする。

委員： 2週間程度の実績が取れており、300円区間の利用が約81%、500円区間の利用が約19%となっており、6月以前と比較すると500円区間の利用率としては減っているが、利用件数は横ばいという状況である。

委員： 暑くなってきたため、出歩かない等の影響もあり、簡単に効果は見れないと思うので、周知を進めつつ、引き続き、検証を進めていただければと思う。

委員： 言葉遣いの話だが、資料2右側2番目の利用状況等のところの1日当たりの利用者数について、微増傾向とあるが、4.7人から11.3人への変化というのは、大幅増だと言っても良いのではないか。

委員： 矢作デマンドの目標値を考慮し、このような表現で記載したところがある。

委員： 4.7人から11.3人の変化をみると、大幅増だと言ってもよいかと思うが、どうか。

委員： ご指摘の通り修正する。

委員： 地域への周知が進んできたというところだと思う。

委員： 今の時期だと、熱中症アラートが出ているので、利用促進が難しいかと思うので、期間の延長で涼しい時期に乗っていただき、地域協議会等で、利用してみた感覚等を協議いただくと良い。600円が高くて、500円が良いという検証については、データの少ないだとか、主観的だとかいろいろな話になってしまうが、利用者の実態を聞いてみるというのはすごく大切だと思う。また、このような乗り物は口コミが大事なため、実際に利用している方のご意見を把握し、より良いルール等を検討し、周知を進めていただきたい。

委員： 地域協議会等で地域の方のご意見を聞くが、地域としては、主に六ツ美のチョイソコの運賃が200円、400円というものとの比較で、矢作が高いのではないかという

感覚をお持ちであるとを感じる。事務局は一生懸命説明しているが、一人運ぶのに、約 8,000 円の市費が投じられている中、税負担が増加する方向に追いつめられるのではないかと危惧している。タクシー業界では、デマンド交通に簡単に乗っかっていくと大変であるというのは水面下で話も出ている。大事なものは、市がどこまで負担するのか、どこまで覚悟があるのかという点で、その視点から政策を進めていただければと思う。

委員： この視点は非常に大事だと思う。定時定路線型ではない乗り物、いわゆる乗合型の区域運行や一般的なタクシーは基本的にデマンド交通である。市として、このデマンド交通に対してどのような手当をしていくかという点は本格運行に向けての重要な評価軸だと思う。

委員： 他に意見がなければ、今年度末まで検証を行うということでご了承いただきたい。

委員： 異議なし。

(3) 名鉄バス高齢者向けフリーパス購入費用の一部補助について
資料 3 に基づき事務局より説明

<以下、各委員の意見等>

委員： 市で購入補助等を実施していただき、本当に感謝している。

シルバーパス 65・ゴールドパス 70 については、コロナ禍においても右肩上がりの事業のため、社内でも明るい話題であった。今年度は、グループ内で協働があり、美合駅、本宿駅にも割引可能な購入窓口を設置している。引き続き、よろしく願いたい。

委員： 補助は基本的には早い者勝ちというものだと思う。来年度以降も、サポートの仕方や市民の方への還元の仕方については、いろいろあると思うので、知恵を出していただき、より良いものの研究を進めていただきたい。

委員： すごくいい仕組みだと思う。民間のサービスの活用という方策で、バスに限らずいろいろなところでも使えることだと思うので、進めていただきたい。

一方で、税金の使い道として説明責任を果たせるかという心配もある。そういう意味で、この補助の目的、高齢者の方の外出機会の創出だと思うが、そのほかに健康の維持等があると思うが、そういった部分を検証しながら、税金の使い道としてふさわしいのかどうかというところを説明できるようにしておく必要があると思っている。行政として、いろいろな効果をエビデンスとしてとらえることが重要なところだと思うので、名鉄バスさんのご協力が不可欠ですが、知恵を出し合って、進めていただきたい。

委員： 県内最大という PR について、競争意識が働いてほかのところも、ということかもしれませんが、ゆくゆくはこういう表現はなくてもよいかと思う。

委員： PR の言葉を上手に選択することだと思うので、今後、ご検討ください。

委員： 仮に、タクシー事業でもこのような対応があるのか質問をさせていただきたい。
というのも、現状、免許返納者に対しては、1割タクシー事業者が運賃を負担するというような制度も採用しており、高齢者パスと同様に自治体が一部負担するようなことがあれば、非常にありがたいと思っている。ご意見を伺いたい。

委員： 障がい者向けのタクシー助成は行っている。
民間の取組に対して、市が負担していくということについては、他自治体等を研究している状況である。

委員： いろいろな制度があると思うので、整理していただくと良い。これから、ラストワンマイルの考えが非常に重要になってくるので、少しアンテナを高くして、先進事例をタクシー事業者さんと連携して検討をお願いしたい。

委員： もうご存知だと思うが、蒲郡市さんが事業者と市で費用を負担しているので、参考となる事例である。

岡崎市の場合は、まだそういう状況ではないが、全国的にみるとタクシー事業者が撤退してしまった地域というのはたくさんある。最後の交通手段と言われるタクシーがないと非常に不便になる。そういう意味で、タクシーを行政が支えるような仕組みを作っておくのは、持続可能な交通手段の提供につながる。あるいは、雇用にもつながっていくので、ぜひ検討をお願いしたい。

委員： 事業の目的ということに通じるかと思うが、7月から9月の支援という点において、公共交通に乗っていただくきっかけを作るという面で、暑い時期ではなく、やはり出かけやすい時期の方が良いのかと感じた。進め方として良いか悪いかは置いておき、例えば、9月からスタートし、高齢者にプレゼントして、敬老の日に家族で出かけていただくとか、設計を考えていただき、新しい利用者を獲得していただきたい。今後は、割引という面だけではなく、使われ方も PR していただくとより良いかと思う。

委員： 7月～9月とすごく暑い時期であるのはその通りである。

過去のデータと比較できるようにこの期間に実施しているが、ご指摘の通り、過ごしやすい時期を活用し PR していくことも検討していきたい。

また、今年度は、利用者向けにアンケートの実施を予定しているため、ご指摘いただいたことや、今回増額した効果等を検証できるように進める。

委員： 先ほどのチョイソコもそうだが、商工会の祭りの日の運行等も同様にチャンスだと

思うので、ぜひ検証を進めていただきたい。

(4) 共創モデル実証プロジェクトの事業採択について

資料4に基づき事務局より説明

<以下、各委員の意見等>

委員： 実施時期はいつか。

委員： 確定はしていないが、10月下旬から11月上旬を予定している。

委員： こういったモビリティには一度乗っていただき、皆で議論することが一番良いと思うので、ぜひ乗っていただきたい。日程が決まりましたら、情報共有をお願いします。

委員： 今回の共創モデル実証プロジェクトという事業だが、国として、地域公共交通のR・デザイン、交通を未来へつなぐため、いろいろなプレーヤーの手を借りながら、活性化させていこうというものであり、岡崎市としては、大河ドラマ館等、市中心部の移動にあたり、パークアンドライド等の仕組みも組み合わせながらこの自動運転バスを運行していくということで採択されている。

今回、第1弾プロジェクトとして採択されたが、追加募集もしているので、ぜひ地域交通について皆さんで前向きにご検討いただきたい。

委員： 駐車場の予約から自動運転バス、大河ドラマ館等、事前に予約可能なシステムを構築するということがあったが、マイカーで駐車した方に対して、接続するバス及びドラマ館への入館まで自動でできるようなことまで想定されているのか。

委員： 方針として、ワンステップでできるシステム構築を目指している。

委員： 現時点で、岡崎市は、大河ドラマ館の利用促進策として、「岡崎もっと楽しめMaaS」というウェブサイトを開いている。今回のプロジェクトでは、そのフロントとなるサイトから、パークアンドライド関係の情報をとれるように改修するイメージとなっている。どこまでシームレスになるかという点については、これから詰めていくところなため、より便利なシステムを実現できるように進めていく予定である。

委員： プロジェクトの結果等についても交通政策会議に報告いただき、議論し、次につなげていけると良いと思うので、よろしく願いしたい。

7 その他

名古屋鉄道株式会社より「のりものかーど」について説明

8 連絡事項

次回会議（令和5年度第3回）予定について連絡

— 会 議 終 了 —